

# 仙台市ミニテニス協会春季大会

## 迫力、白熱の決勝戦

39チームが参加した本年度の仙台市ミニテニス協会春季大会が4月14日、太白区の市体育館で開かれ、会場は開会式前から選手たちの熱気に包まれた。

相互審判制を取り入れ、開会式では阿部勝彦審判長が「ボールのアウト、インなど、ルールに精通してください」と選手に呼びかけた。続いて六郷の堀口好道選手が「練習の成果を発揮し、失敗を恐れず、記憶に残る試合を心掛けて」と宣誓した。

参加チームは年間成績によって1-3部に分かれて試合を行う。予選リ

ングは各部とも二つのブロックに分かれ、1チーム4試合ずつの「特別リーグ戦」。各ブロック上位2チームが決勝トーナメントに進出する。

3部決勝はアルファBと国見ヶ丘Bの対戦。両チームとも初優勝を懸け、持てる力の限りを発揮して攻防を繰り広げた。アルファBが接戦を制した。アルファBの萩原選手は「大会に出た

のは2回目。優勝は信じられない。もともともと練習して強くなりたいです」と興奮気味に語った。

3部の予選で敗退したものの、奮闘したのが吉成。阿部真選手は「パートナーにも恵まれ、2戦2勝。対戦相手はすべて年下で、まともな勝負を避け、コースを狙って揺さぶりをかけたのが良かった」と話した。

2部は国見ヶ丘AとミントBの決勝。1-1で迎えた男子ダブルスはブレッシャーのかかる戦いとなった。互いに持ち味を出し合い、流れがったり来たりしたゲームを制したのはミントB。一歩及ばなかった国見ヶ丘Aの菅原徳夫選手は「勝機はあったのに、それを逃してしまった」と悔しかった。

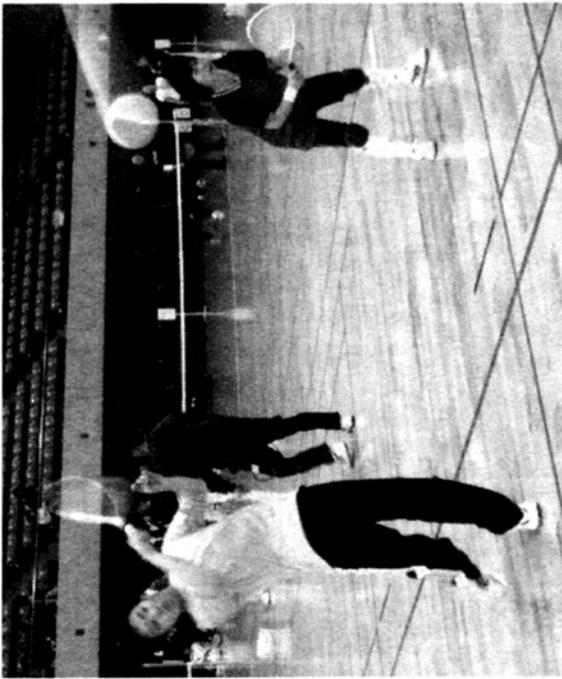
1部決勝は、荒浜Aと本年度1部に復帰した古城Aが顔を合わせた。さすが1部だけあって、ポ

一歩及ばず1部準優勝となった古城Aの川村賢一朗選手(左)と阿部島信子選手のペア

ールの速さや切れ、畳み掛ける攻撃、駆け引きなど、どれ一つを取ってみても迫力があり、観衆をつならせた。

熱戦を制したのは荒浜A。菅野儀仁選手は「苦しい試合だった。何とか相手の強打を封じて優勝でき、感無量です」と語った。

(仙台市・渡辺 勝利)



土曜日掲載

# スポーツパーク

## みやぎ

# 好打、堅守、ラリー、白熱

仙台市ミニテニス協会の第11回大会が5月6日、仙台市若林体育館で行われた。協会設立の平成9年に始まった大会。今年ゴールデンウィークの最終日になったことから、参加数が懸念されたが、市内各地から36チームが参加し、コート狭しと駆け回った。

ボールが空中を舞い、ラリーが続く。トップスピンの効いたストロークの応酬が続く。時には回転の効いたドライブスマッシュが小気味よく決まる。そのたびに声援が飛び交う。簡単なようで難しいボール操作。これがミニテニスの醍醐味(だいきみ)だ。

大会は年間成績による3部制の団体戦。各チームは女子、混合、男子の3ダブルスで編成する。各部とも二つのブロックに分かれ、1チームが4試合ずつ戦つ特別リーグ戦を行い、ブロック1位同士が優勝を争った。

3部決勝は桜Aと高砂の顔合わせ。予選をすべて3-0のパーフェク

で勝ち上がった桜Aが2-0で高砂に勝ち、優勝カップを手にした。

桜Aは4月、会費が50数人となった七郷から発展的に分かれて誕生した

同じく桜Aの羽生固二選手は「選手宣誓で述べた『桜の花のようにパッと明るく、優勝目指して頑張ります』が実現でき

て夢のようです」と機嫌だつた。

2部決勝は南小泉B-1対ミントBの対戦となつた。予選全勝のミントBに対し、予選で3チームが3勝1敗で並び、パートの勝敗率で辛くも決勝

に勝ち上がった南小泉B。ミントB有利とみられたが、南小泉Bが決勝では堅い守りと少ないチャンスを生かし、2-0で快勝した。

1部決勝は、共に予選

全勝で圧倒的な強さを見せつけた荒浜Aと荒浜Bの身内対決となった。互いに手の内は百も承知。勝負どころとなった混合ダブルスでは、好打、好守の応酬に惜しめない拍手が送られた。接戦の末、この試合を制したのは荒浜A。女子ダブルスと合わせて2-0で荒浜Bを下し、3年連続優勝を成し遂げた。

荒浜Bの混合ダブルスに出場し、チーム全体のコーチでもある菅野儀仁選手は「若い選手が成長した。うれしい敗北です」と話していた。

(仙台市・遼辺 勝利)

## 仙台市ミニテニス協会大会

# 若手の成長収穫

会費22人の新チーム。代表の狩野とよ子選手は「結成して1カ月での優勝。信じられない。うれしくて胸がいっぱいで」と興奮気味に語った。



3部で初優勝した桜Aチームの皆さん

# スポーツパーク みやぎ

土曜日掲載

ミニテニス

## 普及目指し山形へ

### 体育指導委員研修で講師

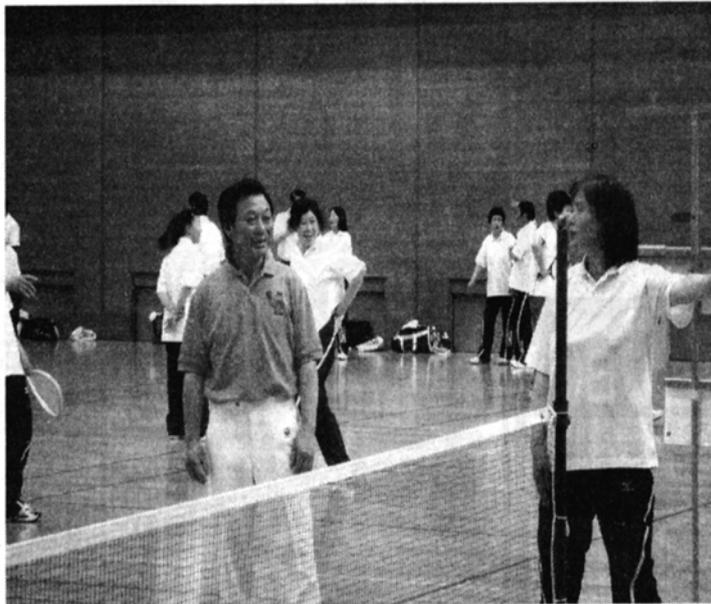
「ミニテニスの理論と実技」と題した山形市体育指導委員研修会が5月26日、同市総合スポーツセンターで開かれた。山形県内にはミニテニスはまだまだほとんど普及しておらず、日本ミニテニス協

会の公認指導員と審判員資格を持つ私と阿部勝彦が、57人を前に講師を務めた。ミニテニスは1986年に誕生したスポーツ。使い、バドミントンのコートでサーブからレシーブまですべてワンバウン

ドでプレーする。「競技性も兼ね備え、ストレス解消と体力づくりには最適」などと説明した後、6班に分かれて実技指導に入った。

ラケットの握り方や基本の構えからのフットワーク、ミニテニス特有の素振りなどの後、正しいドライブボールの打ち方やサーブ、さらに応用練習を試合形式で行った。そのうちにラリーも続

くようになり、中にはバックスピンや強いドライブスマッシュを放つ人もいて、私たちを驚かせた。さすが地域の指導者、のみ込みが早い。



審判法を指導する阿部勝彦さん

閉会式で、山形市体育指導委員会の金田栄一郎会長は「有意義な研修会だった。簡単そうだが奥が深い。まずは市内6地区にも、ミニテニスのチームをぜひ立ち上げたい」と話していた。

(仙台市・渡辺 勝利)

# 素早い攻撃 観衆魅了

## ミニテニス協会 1部は荒浜A優勝

仙台

勝のJOY・Aと荒浜Aの対戦。スピードと軽快なフットワークから繰り出される攻撃が観衆を魅了した。

1-2で惜敗したJOY・Aの菅原慎太郎選手は「チャンスはあったが、流れをつかみ損ねた」と悔しそう。一方、荒浜Aの佐藤雄選手は「厳しい展開だったが勝って嬉しい」と話した。決勝は思い切った攻撃が観衆を魅了した。

本年度新加盟のしろいシクラブ(白石市)は今日、大会がデビュー戦。「試合前は緊張していたけれど、始まったから楽しくプレーできた。次は結果を出せるよう、練習に精進します」と平間好子代表は意欲を示す。3部で一戦一戦を精いっぱい戦った同クラブ。これからの活躍を期待したい。

3部のミニテニス富沢の横山佳子選手は大会初出場。「3試合して2勝1敗は出来過ぎ。パートナーのおかげです。もっと技を磨き、ミニテニスで熱くなれる女性になりたい」と思いを話した。

当日は、震度6強を記録する新潟県中越沖地震が発生。選手の中にはミントAの後藤久選手ら東北電力の社員も3人おり、非常事態に、会場から職場へと向かった。協会員一同、被災地の日も早い復興をお祈りしたい。

本年度の仙台市ミニテニス協会夏季大会が7月16日、太白区の市体育館で、43チーム、約340人が参加して開かれた。開会式では、ミントAの秋山祐美子選手と天津清子選手が「スポーツマンシップにのっとり、日進無出を懸け、予選リーグ

に臨んだ。鋭いスマッシュが決まる半面、的確なポジショニングでそれを好しシーフして得点につなげるといった攻防が、随所に見られた。ハイライトは1部準決勝のJOY・Aの菅原慎太郎選手は「チャンスはあったが、流れをつかみ損ねた」と悔しそう。一方、荒浜Aの佐藤雄選手は「厳しい展開だったが勝って嬉しい」と話した。決勝は思い切った攻撃が観衆を魅了した。

# スポーツパーク みやぎ

土曜日掲載



宣誓する秋山祐美子選手(左)と天津清子選手

3部のミニテニス富沢の横山佳子選手は大会初

(仙台市 渡辺 勝利)

# 攻防多彩 観衆沸く

## 07ミニテニス大会 40チーム奮闘

仙台

プレーできた。いい経験にしたい」と言い、感じるものがあつたようだ。

2部は南小泉Bが優勝。小松真一主将は「予選は余裕で勝ち進んだが、若林Bとの決勝は苦戦の末の勝利。ペテラン女子ペアに助けられ、今シーズン2度目の優勝ができた」と胸をなでおろしていた。

一方、1・2で惜敗した若林B。「優勝」の2文字まであと1点と迫つたものの、その1点が遠かった。渡辺浩秀主将は「準優勝は評価できる。負けの反省より勝つ喜び

スポ・レク・フェスタ 各部とも二つのブロック強弱をつけながら相手の弱弱をつけながら相手の07ミニテニス大会が9月に分かれ、1チームが416日、仙台市若林区の若林体育館で開かれ、市内各地から参加した40チームの3ゲームマッチ)を行なう。プロック1位同士が競った。

大会は年間成績による3部制の団体戦。各チームは女子、混合、男子の3ダブルスで編成する。10点先取の1ゲームマッチで優勝を争った。各部とも技術が拮抗し、(きつこ)し、強打だ。では試合に勝てない。

た若林B。「優勝」の2文字まであと1点と迫つたものの、その1点が遠かった。渡辺浩秀主将は「準優勝は評価できる。負けの反省より勝つ喜び

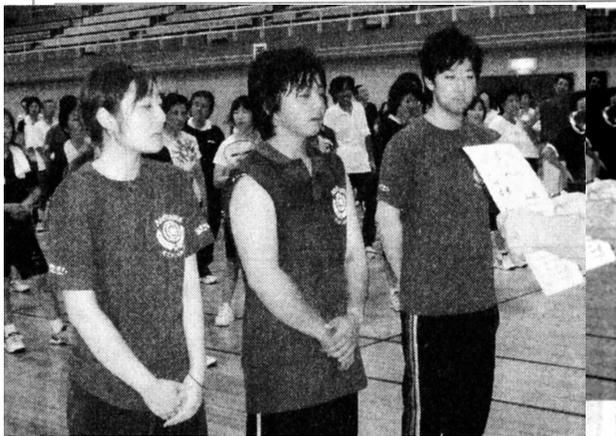
が、個人の向上心とチームの結束を生む」と自らを励ますように語った。1部決勝は荒浜Aと荒浜Bの同チーム対決となった。目黒から切磋琢磨(せつさたくま)してストリート勝ちしたが、(仙台市・渡辺 勝利)

た。敗れた荒浜Bの松本秀高選手は「相手の攻撃パターンは熟知しているが、自分たちのリズムで試合を運べなかった」と潔く負けを認めた。

# スポーツパーク

## みやぎ

土曜日掲載



末永麻紀選手、中沢友佑選手、松木勇介選手



# 好プレーに会場熱気

## 1部の荒浜A、6大会連覇



### 仙台市ミニテニス秋季大会

仙台市ミニテニス秋季大会が11月23日、泉区の泉総合運動場体育館で、42チームが参加して行われた。寒い日にもかかわらず、会場は選手たちのカラフルなユニホームと意欲あるプレーで熱く燃えた一日となった。

大会は3部制による団体戦。各チームは女子、

1部優勝に貢献した荒浜Aの松木勇介選手(中央)と末永麻記選手(右奥)の混合ペア

敗した沖野ミントBの須田恵梨子さんは「チャンス逃して流れをつかみ損ねた」と残念がった。

成し遂げた。成田朱実さんは「結果は2-0でしたが、気の抜けない試合でした。少ないチャンスを生かし、何とか踏んばれました」と喜びを語った。

惜しくも準優勝となった連坊Aは20人の部員が一定のレベルにあるクラブ。来季の優勝を目指して二層の精進を期待したい。

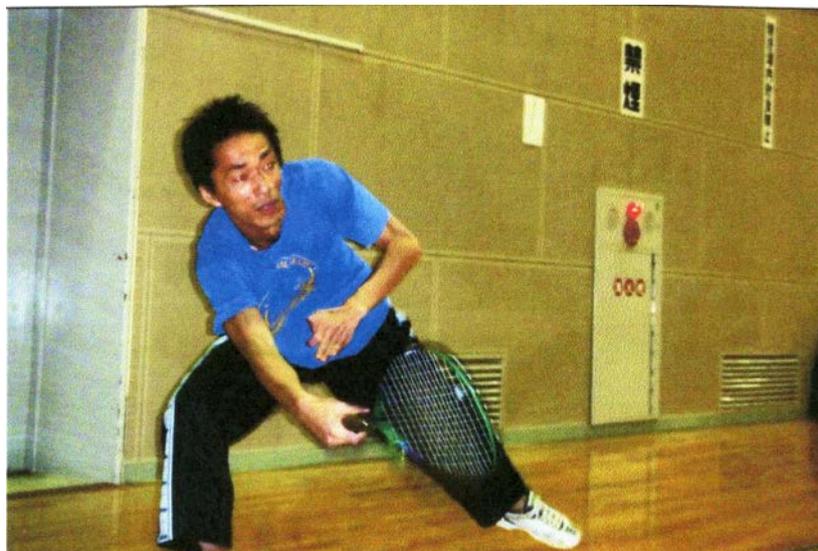
2部で初優勝した七郷Aの女子ダブルスは、大宮晴香さん、佳奈さんの姉妹ペア。息の合った戦いを披露した佳奈さんは「試合前は緊張して苦しかったけれど、姉のリードが良かったので勝てました」と明るい笑顔を浮かべた。決勝で惜

3部決勝は、図らずも桜A、桜Bの同クラブ対戦となり、桜Aが圧勝した。女子ながら男子ダブルスに出た桜Bの菊地昭子さんは「一生懸命頑張った。準優勝を勝ち取った若いチームメイトに拍手です」と話した。

3部は2部を、2部は1部を目指して切磋琢磨(せつさたくま)する選手たちに元気をもらった大会だった。

(仙台市・渡辺 勝利)

おこわり 「ハーftime」は休みました。また、新年の「スポーツパークみやぎ」は1月12日付からとなります。



## 仙台市ミニテニス協会設立10周年式典

# さらなる発展誓い合う

仙台市ミニテニス協会(渡辺勝利会長、加盟31団体)の設立10周年記念式典祝賀会が、青葉区の三井アーバンホテルで昨年11月18日、関係者や選手ら100人余りが参加して開かれた。

あいさつに立った渡辺会長が、協会の歴史や現状、年間の活動ぶりなどを紹介。「年7回の大会に中学生から70代までの選手300人前後が参加し、切磋琢磨(せつさたくま)しながら楽しんでます。これからは青少年の健全育成に貢献していきたい」と述べた。続いて、会の発展に尽力した6人が表彰された。

参加した高砂球友クラブの伊藤宗彦(左)と藤島福治(右)が表彰を受ける。伊藤さん(左)、藤島さん(右)の妻(右)。



昭会長は「クラブが発足して8年、夫婦で入会して楽しんでいます。会員の平均年齢は67・5歳と高いですが、皆さん全く年齢を感じさせず、

元気に明るく、ゲームをしています」と話してくれた。

市外から唯一加盟している、しろいしクラブ(白石市)の平間好子会長は「子育ても一段落した時、ミニテニスに出合い『これぞ探していた生涯スポーツ』と直感しました。7月に初めて大会に出場し、熱気と迫力あるプレーに驚くばかり。皆さんの温かい声援に励まされ、これからはもっと頑張ろうと思いました」とやる気満々だ。

いつもはスポーツウエア姿しか見たことがない皆さんだが、この日はおしゃれで芸達者と、まるで別人のよう。パーティーでは各チームのカラオケ合戦などもあって大いに盛り上がり、協会の一層の発展を誓い合った。

表彰者は次の通り。(敬称略)  
丹野克之(トリコロール) 柴崎信子(連坊) 阿部勝彦(南小泉) 桜井秀郎(荒町) 藤島福治、藤島ミワノ(鶴ヶ谷)

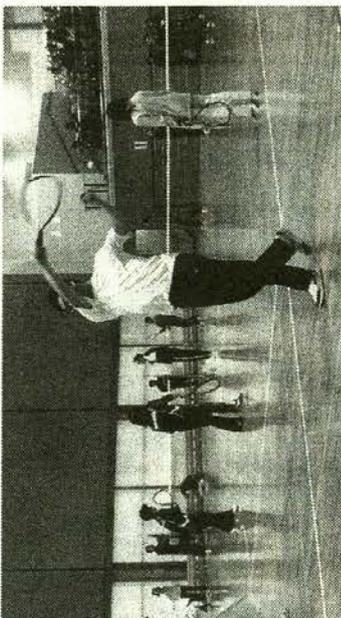
(仙台市・阿部 勝彦)



2部で中村光一・藤村健組、女子3部で若松真由美・高山初江組がそれぞれ優勝した。中村・藤村組は昨年に続く連覇。中村さんが「パートナーに助けられたとたえば、藤村さんも「良い守備から良い攻撃につながる事ができた」と語る。その言葉にチームのエースとしての自信が感じられた。

男子3部は桜の堀江重夫・小野崎重広組の中年ペアが、予選から丁寧なプレーで優勝した。

女子2部で栄冠を手にしたのは松陵クラブの板沢恵都子・安孫子明子組。会長として泉区ミニテニス協会をまとめる板沢さんは「優勝できて感無量です。



男子2部で連続優勝した藤村健選手のフォアハンドストローク

仙台市ミニテニス協会個人戦 これからも練習に精進し、ミニ大会が2月1日、宮城野区の宮城野体育館で開かれた。男子と女子のダブルスに合わせて11組が参加し、練習の成果を競った。

競技は3部制で実施。各部を2ブロックに分けた予選は、各ペアが4試合を行う特別リーグ戦で、上位2組が決勝トーナメントに進む。予選はポイント先取の3ゲーム。決勝トーナメントは10ポイントの1ゲームで行った。

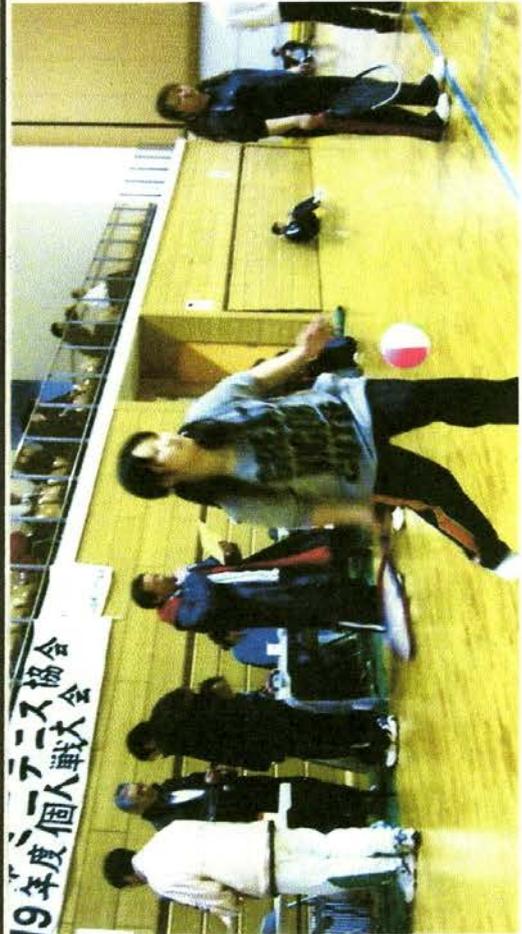
準境著しい国見ケ兵、男子

これからの練習に精進し、ミニテニスの普及に努力したい」と喜びと抱負を語った。

女子1部優勝は沖野ミントの須田みき・恵梨子組の親子ペア。さすがに関係の良さが光った。男子1部は荒浜の松本真介・中沢友佑組が頂点に立った。「大事な場面で意識して集中できるようになった」と中沢さん。和やかな雰囲気の中にも、若者のハッスルプレーや、必死に打ち返すベテラン選手に、会場から惜しめない声援が飛んでいた。(仙台市・渡辺 勝利)

## 仙台市ミニテニス協個人戦

# ペア息合わせ 目指すは勝利



# スポーツパーク

# みやぎ

土曜日掲載